

1 審議会名	塩田地域協議会
2 日時	令和2年2月20日(木)午後1時30分から午後2時45分まで
3 会場	塩田解放会館(塩田公民館)大ホール
4 出席者	山極 一雄 会長、山部 健壽 副会長 浅川 司 委員、荒川 玲子 委員、伊藤 準一 委員、尾崎 孝子 委員、 工藤 勇 委員、工藤 れい子 委員、神津 和夫 委員、小林 寿美男 委員、 坂田 忠則 委員、竹内 弘子 委員、龍野 藤人 委員、中村 佳津枝 委員、 早坂 みどり 委員、宮澤 郁夫 委員 (欠席者)阿部 ふさ子 委員、安藤 健二 委員、林 千尋 委員、 若林 ひとみ 委員
5 市側出席者	上田市 塩田地域自治センター 小林 弘明 センター長、酒井 重雄 塩田地域振興政策幹、 池田 昌彦 庶務企画係長、岩倉 光男 主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0名 記者 無
8 会議概要作成年月日	令和2年3月5日

協 議 事 項 等

1 開 会(副会長)
2 あいさつ(会長)
3 諮問事項 (1) 第二次上田市総合計画 後期まちづくり計画「地域の特性と発展の方向性検証シート」の見直しについて 前回までに指摘のあった箇所と上田市から修正があった箇所について事務局より説明 (委員)地域の特性「1 重要な観光資源である別所温泉と信州の鎌倉と称される多くの史跡・文化財の集積」の、「信州の鎌倉」という言葉を「信州の学海」という言葉にしたほうが良いとあるがこれはどういうことか。 (事務局)市の中でも意見が分かれており、文化財の担当は「信州の鎌倉」という言葉のほうが良いということであった。 (委員)「信州の鎌倉」と「信州の学海」という言葉の意味を正しく知っている人に判断してもらうのがいい。委員の中でこの辺わかる方いたら教えてもらいたい。 (委員)「信州の鎌倉」とは鎌倉市の環境が上田市に似ているということかと考えていたがどうなのか。また、「信州の学海」というのは昔学校でどこかの住職が送った手紙の中に「塩田は信州の学海なり」というよう書かれていると教わった。学校の前に石碑がなかったか。 (委員)あの石碑は確か昭和35年のものだ。 (委員)どういう意味で「信州の学海」といったのかが分かればいい。

(委員) 専門家ではないがわかる範囲でお話したい。昔独鈷山のふもとに多くのお寺が開かれたが、当時はお寺が学問の中心の場だった、そういう意味で学びの海、学海と理解している。「信州の鎌倉」は鎌倉時代に北条氏の一族が三代塩田を治めたが、その時にこのあたりの元が作られたことからできた言葉で、鎌倉道という古道も現存している。鎌倉市との姉妹都市というのは最近の話で、ちなみに中塩田で毎年花火大会をやって三十数回になるが、「信州の鎌倉 塩田平の夏祭り」という名前でやっている。私としては「信州の鎌倉」でいってもらいたい。

(委員) 塩田は信州の学海なり、については塩田ボランティアガイドの会で出された本に書いてある。読んでみると「鎌倉期の塩田は信濃の文化・学問の中心地であり、塩田は信州の学海と称する。三楽寺、別所の安楽寺・常楽寺・長楽寺、長楽寺は正確な場所はわからないが今の北向観音のところ隣接していたらしいが、これらで三楽寺、中禅寺、真言宗の4か所の学校ともうひとつは前山寺などの名刹があり、そこに第一線を退いた名僧が集まり若い修行中の僧がその名声を慕って来りて、その名僧たちが彼らに仏法学問を教えたのでこのような信州の学海と称される」これが一番わかりやすい。それと「信州の鎌倉」というのは国鉄のディスカバー・ジャパンのころ、例えば川越が小江戸、山陰の小京都、そのようなものと並び称される感じで、「信州の鎌倉」のほうがなじみやすい。学海となるとこの辺の人は知っているけどほかの人はどうか。「信州の鎌倉」のほうがなじみ親しみやすい。

(会長) 「信州の鎌倉」がいいという意見が多いので、「信州の鎌倉」でいきたいが事務局よろしく伝えてもらいたい。ほかにどうか。

(委員) 発展の方向性と取組の内容があり、発展の方向性で書いてあることを取組の内容で全部言っていないように見えるがそれでいいのか。例えば発展の方向性の1番目「貴重な資源と貴重な財産を見つめ直し、観光振興に生かします。」は取組の内容1番目「地域特性を生かした観光振興」と対応しているように見える。こういうのは同じ内容だからいいが、ちょっと不具合だと思っているのは発展の方向性の6番目「生涯学習活動の活性化により、健康で文化的な生活や次世代の健全育成に向けた活動を推進します。」と取組の内容6番目「若者が住みやすい健康で文化的な生活の実現に向けた活動の推進」は「若者が住みやすい」という言葉が発展の方向性に入っていない。そこで、発展の方向性の6番目は「生涯学習活動の活性化により、若者も住みやすい健康で文化的な生活や次世代の健全育成に向けた活動を推進します。」のほうがいいのではないか。なお、取組の内容の6番目は「若者が住みやすい」とあるが塩田地域の若者だけが住みやすいわけではないので、「若者も住みやすい」としたらどうか。また、発展の方向性の5番目「歴史・自然・生活が調和した秩序ある」が取組の内容の5番目の「計画的な土地利用」に対応するのだとすれば、取組の内容の5番目は「歴史・自然・生活が調和した計画的な土地利用の推進」とした方が発展の方向性の内容を生かした取組の内容になると考えるがどうか。

(事務局) 補足だが、発展の方向性と取組の内容は必ずしも対応していなくていい。塩田地域の場合は数も内容もほぼ同じになっているが、他地域では発展の方向性と取組の内容の数が異なっている。

(委員) 塩田にはこういう特性があってそれを踏まえて塩田地域が発展していくためにはこういう方向に向かって発展して行ってほしい、こういう方向にもっていきには何に取り組んでいったらいいか、というのが取組の内容になる。このように順序だてた方がわかりやすい。となると発展の方向性ごとにどういう取組をしているか、というようにした方が

いい。

(事務局) そのような表現にしてもかまわない。

(委員) そもそも前期に作ったときはそういう意図だったのか。発展の方向性と取組の内容の数が一緒ということは、そのように意図していたように見受けられるが。

(事務局) おそらく意図していたと考えられる。

(会長) 今の意見についてどうか。

(会長) 特に意見がなければ先ほどのとおり修正をお願いする。何かほかにあるか。

(委員) 「いかす」を「生かす」にするのは上田市の統一した方針ということでよいか。

(事務局) そのとおり。それ以外にも「じゅうぶん」は「充分」、「ひとりひとり」は「一人ひとり」というように上田市全体で用語は統一する。

(委員) この後期まちづくり計画は本来上田市という行政が作成するもので、我々はこういう意見を入れてほしいこれをやってほしいという意見を言っているだけで、計画を作成する主体ではない。表現は上田市の統一した基準でかまわないし、むしろ直してもらいたい。我々は中身についての意見を言っているのであって、言葉遣いはほかとの整合性を当然取らなくてはならないので、我々が言ったとおりにしなければならぬわけではない。

(委員) 文書表現は統一する意義がある。同じ意味を言っているけど違う言葉を使っていると、読み手が違う意味にとらえてしまう。なので、同じことを言う場合は同じ言葉、同じ漢字、おなじ仮名遣いに統一する必要がある。普段我々が使う言葉とは違ってきてしまうのは当然。

(委員) 取組の内容「大学・研究施設等との連携促進」2番目「産・学・官・民の連携に係る地域情報の積極的発信」から「若年層の定住促進」という言葉が削られた。定住促進は大事なことだがその後この言葉がなくなってしまった。もしかしたら取組の内容「若者が住みやすい健康で文化的な生活の実現に向けた活動の推進」の「若者が住みやすい」という言葉がそれにあたるのかもしれないが、それとは別に発展の方向性の6番目を「6 生涯学習活動の活性化により、健康で文化的な生活や次世代の健全育成・定住促進に向けた活動の推進」として若者の定住を促進する言葉を入れてもらいたい。

(会長) 「若年層の定住促進」に関係するには、取組の内容「大学・研究施設等との連携促進」2番目「産・学・官・民の連携に係る地域情報の積極的発信」だけではない、ほかの取組の内容や視点・要素にもそういう面がある。さしあたり取組の内容「若者も住みやすい健康で文化的な生活の実現に向けた活動の推進」をこの表現にした。これはこのままでいいか。

(委員) それはそのままでもいい。「若者も住みやすい」という言葉もいいが、「定住促進」という言葉が家庭を築いて未来につながる発展性のある言葉なので、「定住促進」という言葉があってもいい。「若者が住みやすい」というと学生のような一時的に住む人も含まれるが、「定住促進」だとそこに住み続けて地域に定着するという意味合いがあり、未来がある。

(会長) そうすると、発展の方向性の6番目は「6 生涯学習活動の活性化により、健康で文化的な生活や次世代の健全育成及び定住促進に向けた活動の推進」となる。取組の内容の6番目は「若者も住みやすい健康で文化的な生活の実現や若者の定住促進に向けた活動の推進」となるが、若者という言葉が2回出てくるので片方削除するか。

(委員) 定住促進は若者だけではなく、別所のようにセカンドライフのような人も対象になる。若者に限らず人口が増えていく可能性はある。

(委員) 取組の内容の6番目は、最初は若者の定住促進がテーマであったが、それをどうやって表現するかということでこのような表現になった。これでここから若者という言葉すべて削除してしまうと、またどこか別の個所で表現する必要がある。

(会長) 発展の方向性の6番目は先ほどのように修正するとして、取組の内容の6番目は「健康で文化的な生活の実現や若者の定住促進に向けた活動の推進」でいいか。

(委員) 「次世代」という言葉には若者が含まれているので、「若者」という言葉は不要ではないか。

(委員) この「次世代」は「健全育成」にかかる言葉であって、「定住促進」については「次世代」や若者について何も言っていない。

(委員) 「次世代の健全育成」ができていれば、定住促進になるのではないか。

(委員) やがてはそうなるであろうが、取組の内容に「定住促進」という言葉をはっきり入れて強調したいということだろう。

(事務局) 取組の内容の6番目は「若者も住みやすい健康で文化的な生活の実現に向けた活動の推進と定住の促進」としたらどうか。

(委員) 「若者も住みやすい健康で文化的な生活の実現に向けた活動の推進及び定住の促進」のほうがいい。

(会長) では、取組の内容はこれでいくとして、発展の方向性の6番目は先の「6 生涯学習活動の活性化により、健康で文化的な生活や次世代の健全育成及び定住促進に向けた活動を推進します」でいいか。

(会長) ではこれで決定として、不都合なところがあれば事務局のほうで調整してもらいたい。

5 その他

わがまち魅力アップ応援事業の継続事業のうち、「手洗池の魅力アップ」の実施期間を3年から4年へ延長する件は、やむを得ない事情として委員の了承を得た。

また、それ以外の令和2年度の継続事業については事業内容・補助金額・実施期間に変更がない場合は事務局が審査し、問題がなければ採択と処理することについて委員の了承を得た。

6 閉会(副会長)